

至誠通天

藤井 勇治

※至誠通天
誠を尽くせば天が
味方してくれること

新成人おめでとう

輝かしい20歳の春を迎えられた皆さん、誠におめでとうございませう。心からお祝い申し上げます。

昨年は皆さんと同世代の人の活躍が際立った1年でした。滋賀県出身では、女優で北びわ湖PR大使の堀田真由さんがNHK連続テレビ小説に出演されました。今後国民に愛される大女優に成長されることが期待されます。また、スポーツ界では桐生祥秀さんが100m走で日本人初の10秒を切る快挙を成し遂げるなど国民に感動を与えてくれました。

一方、全国的な文化に目を向けると、将棋の藤井聡太さんが史上最多の29連勝記録を樹立されたことは、大人と対等の立場での偉業であり、驚きと賞賛の声が絶えない明るいニュースとなりました。いずれも、若い世代に心強さを感じる話題であり、ますますの活躍を祈念します。

長浜市においては、去年10月、朝鮮通信使に関する資料が「ユネスコ

世界の記憶」に登録されました。本市出身と伝わる朝鮮との外交に尽力された儒学者の雨森芳洲先生の功績が広く認められたことは、我々市民の誇りです。一昨年のユネスコ無形文化遺産に長浜曳山祭が登録されたことと併せて、ふるさと長浜が世界に名を轟かせる機会となり、とても喜ばしいニュースでした。

この歴史と文化の薫る長浜市を継承し、さらに発展させるためには、新成人の皆さんの情熱にあふれた若い力と郷土を愛する心が必要です。どうか、ふるさとの自然、文化、歴史や産業などを見つめ直してください。そして豊かな若い感性を活かしながら、地域が元気になる取り組みに携わっていただけることを期待します。挑戦と創造の精神で!!



▲誓いの言葉を述べる新成人(木之本会場)

市立病院通信 92

お元気ですか

「滋賀県
がんと向き合う
週間」

滋賀県では毎年2月4日～10日を「滋賀県がんと向き合う週間」と定めています。

県民や事業者ががんに関する理解と関心を高めるとともに、がんの予防、早期発見等に関する自主的な取り組みへの意欲を高めるための活動が行われます。市立長浜病院では、週間に合わせて、がんへの理解を深めていただくための各種事業を行います。

●相談窓口・

パンフレット等の設置

がんに関する相談窓口を正面玄関に設置し、がん専門相談員が無料で応じます。予約は不要です。お気軽にご利用ください。また、がんに関連するパンフレットや、がん体験者の作品などを展示します。

【期間】 2月5日(月)～9日(金)
【場所】 市立長浜病院玄関ホール

●がん治療にかかる医療費の
個別相談会(要予約・無料)

【日時】 2月7日(水)13時～15時

【場所】 市立長浜病院
別館1階「i・りんぐ」

【講師】 市立長浜病院
社会福祉士 橋本 祥子

●「がんを知ろう展示会」

【期間】 2月5日(月)～13日(火)

【場所】 長浜市立高月図書館

【内容】 長浜市のがんの状況紹介
当院からは、がんの治療や療養生活などに関するポスターやパンフレットの展示を行います。

「滋賀県がん対策の推進に関する条例」に定められているこの週間は、県のみならず関係機関・団体が一体となって啓発活動を展開するものです。

市立長浜病院では、地域がん診療連携拠点病院として、皆さんに少しでもがんについて考えてもらえるよう、がんに関する知識や情報を提供するなど取り組みを積極的に行います。

市立長浜病院
(☎6812300(代表))

ながはまの文化財

市内には、国や県、市が指定した文化財がキラ星のごとく光り輝いています。このコーナーでは、449件※ある文化財の中から代表的なものをシリーズで紹介します。

※平成30年1月1日現在

滋賀県選択無形民俗文化財 富田人形

指定日:昭和32年(1957)8月1日指定

保護団体:富田人形共遊団(富田町)

人形浄瑠璃は、浄瑠璃(三味線で伴奏する語り物)に合わせて人形を操る演劇で、日本の近世芸能の一つとして知られています。近世中期に大坂で成立した人形浄瑠璃文楽がその代表といえるでしょう。

富田町に伝わる人形浄瑠璃「富田人形」の歴史は古く、文政13年(1830)頃までさかのぼります。伝承によると、阿波から巡業にきていた人形芝居の一座が、北富田の地で雪に降り籠められて興行ができず、帰りの路銀の代償として人形や道具一式を残していき、村の芝居好きの人々が農業のかたわら稽古をするようになったのが始まりとされています。

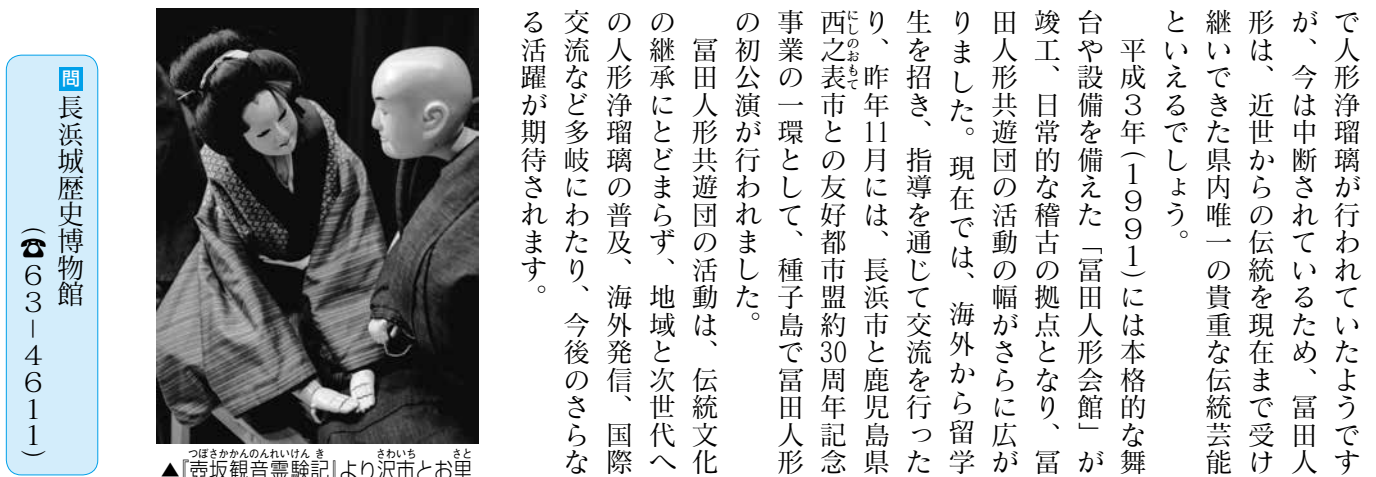
その後、大坂の人形遣い・吉田文吾らの指導を受けたことで人形座としての基礎ができあがり、「吉田座」と称して近隣の寺社や祭礼に招かれて公演活動を行うようになりました。

明治7年(1874)には県の許可を受けて独立し、他地域への興行を開始しました。富田人形は父子相伝の技法として伝承され、それが五代以上にわたって伝えられるうちに「富田のデコ芝居」として愛好されるようになります。昭和32年(1957)には県の無形民俗文化財に選択されました。兼業農家の増加や後継者不足などにより、一時は中断されましたが、昭和54年(1979)に新生「富田人形共遊団」

として活動を再開。北富田の人々を中心に、市内外の人形を愛好するメンバーによってその伝統の灯が受け継がれています。

人形浄瑠璃は、太夫(語り手)、三味線(弾き手)、人形遣い(遣い手)の「三業」で成り立つ、三位一体の総合芸術と言われています。太夫は老若男女あらゆる人物になりきって台詞やしぐさ、情景描写、物語の背景などを義太夫節の語りで表現します。この太夫の語りを支え、物語を音で表現するのが三味線です。人形浄瑠璃では幅のある力強い音色を特徴とする「太棹三味線」を使います。

人形を操る役割が人形遣いといい、富田人形では三人で一体の人形を操る「三人遣い」の形を取っています。人形の首と右手を遣う「主遣い」と、左手を遣う「左遣い」、足を動かす「足遣い」の三人がタイミングをぴったりと合わせて一つの人形を操ります。人形遣いは、黒衣と呼ばれる真っ黒な衣装をまとい、黒い頭巾をかぶって舞台を務めますが、主遣いだけは頭巾をかぶらずに顔を見せ、舞台下駄と呼ばれる背の高い下駄を履いて人形を操ります。主遣い、左遣い、足遣いの息の合った繊細な動きによって人形に魂が宿り、人間以上に人間らしく見える写実的な人形浄瑠璃の世界が広がるのです。



▲「壺坂観音霊驗記」より沢村とお里

関 長浜城歴史博物館

(☎6314611)